

市は、平成4年度から次代を担う青少年に、諸外国の生活や文化を経験してもらい国際理解を深め、国際的な視野に立って行動できる人材育成を目指し、友好都市であるデンマーク王国・ファボー・ミッドフュン市に中学2年生を派遣しています。

派遣事業開始以来18年が経過し、これまで生徒113人、引率者53人、計166人が現地を訪問し交流しています。

当初派遣された中学生は、すでに30歳を超え社会の一員として活躍しています。

今号では、今年デンマークに派遣した中学生たちの現地での交流と、これまでに派遣された先輩の皆さんにお集まりいただき開催した座談会の様子をお知らせします。



広がる友好の輪

登別市中学生海外派遣事業

【写真】登別マリンパークのモデルとなった「イエスコウ城」



たデンマーク研修 派遣事業座談会より

わたしは、現在、体調を崩し入退院を繰り返しているのですが、車いすを使っている人と触れ合う機会があります。デンマークに派遣されたとき、けがをしたわたしは、1日だけ車いすで行動しましたが、現地では、バリアフリーの環境が整備されていたことを今でも思い出します。福祉の面でも日本との違いを実感しました。登別は障がいのある人にとり、さまざまな場所や施設が利用しやすいでしょうか。登別も日本全国も、もっとデンマークと同様にバリアフリーの整備が進めば良いと思っています。このようなことを意識する理由は、デンマークで体験したことが今も記憶に残っているからだと思います。



平成5年派遣
成田美登利さん

現在は、家庭を持つサラリーマンです。外国には小さい頃から興味があり、中学2年生のとき派遣事業に応募しました。デンマークを訪れて自分がそれまで描いていた外国に対するあこがれのようなことが、現実のものとなりました。その後は、さらに外国を知りたいと思うようになり、大学在学中に1年間アメリカに留学し、英語を学びました。派遣事業に参加したことがきっかけで視野が世界に広がり、海外とかかわってみたいと思う気持ちが強まりました。毎日の仕事の中にも、今までの経験が役立っています。



平成5年派遣
櫻井孝之さん

現在、大学で知的財産の保護などについて学んでいます。それらの研究において、中国人とディスカッションをすることが多々ありますが、わたしは中国語を話すことができません。中学生派遣事業でデンマークを訪れたときも、十分に英語を話すことができませんでしたが、自分が話そうと思えば、その気持ちは相手に伝わり何とか分かることが分かり、英語を話す勇気がわきました。勇気を持って自分から話し掛けたことが良い経験となり、今の研究の中にも生かされていると思います。



平成9年派遣
佐藤雅一さん

高校を卒業後、看護師を目指し大学に進学しました。在学中、イギリスに3週間語学研修に行きました。そこでは、自分が中学生の時にデンマークに行った経験が生き、英語力は足りなくても、下手でも、積極的に交流をしました。現在外国の方と接する機会はあまりありません。今日、皆さんに会えたことで、また英語を勉強しようと再決心をしたところです。言葉が通じなくても物おじせず、コミュニケーションを自分から取ることなどは、派遣から学んだと思いますし、初めて会う人と話ができるようになり、人とのかかわりなどを学ぶ良い機会となったと思います。現在助産師をしていますが、派遣で得たこれらの経験は仕事にも役立っています。



平成9年派遣
滝谷幸子さん